

2015年に起きたセンチクバエ幼虫による鼻腔ハエ症について

福地齊志・安座間安仙・久高潤

A Case of Nasal Cavity Myiasis Caused by Larvae of *Sarcophaga peregrine* in 2015

Yoshimune FUKUCHI , Yasuhito AZAMA and Jun KUDAKA

要旨：2015年に沖縄県内の医療機関において、入院患者の鼻腔内からハエ類の幼虫が採集された。採集された幼虫を当研究所で預かり同定を行ったところ、ニクバエ類であることが判明した。その後成虫まで飼育させたところ、雄の生殖器の形からセンチクバエ *Sarcophaga peregrine* であることが判明した。

Key Words：センチクバエ，ハエ症，沖縄県

I はじめに

ハエ類の幼虫が、偶発的に人畜の内部または外部寄生虫として病害を起こす事をハエ症 Myiasis と称し、国内でもこれまでに数多くの報告がされてきた¹⁾。

しかし、報告が数多くされてきたのは数十年も前の頃で、当時に比べ衛生環境が飛躍的に向上した現代ではハエ症自体は希である。

今回、県内の病院内において偶発的ハエ症が起こり、当研究所へ同定依頼があったので参考までに報告する。

II 材料及び方法

2015年6月、沖縄県内医療機関において寄生虫症を疑う症例の検査依頼が当所にあった。患者の鼻腔内から摘出された9個体のうち、1個体は形態同定のため固定し、残りの個体は当所で飼育した。

形態同定でニクバエ類と判明したため、残った幼虫の飼育は室温を28度前後に調整し、湿度を保つため湿った綿を置いた。餌は市販の固形試料等ではなく、弁当の残りの鳥肉を使用した。

変態後の雄の成虫を用いて種まで同定した。

III 結果及び考察

2015年6月19日、医療機関から生きたままの個体を9匹預かった。うち1匹を固定し、形態同定を行ったところ、ニクバエ類の3齢虫であることが判明した。幼虫のままでは正確な種名を判別することは難しいため、残りは成虫になるまで飼育し、正確な同定を行った。

飼育中に1匹は死亡したが、残りの7匹は順調に育ち、6月21日には1匹目が、6月26日には7匹全てがサナギ化し、7月2日には4匹が成虫となった。うち1匹を

固定し、形態同定を行ったところ、センチクバエ *Sarcophaga peregrina* であることが判明した。

センチクバエは北海道からニューギニアと幅広く分布し²⁾、沖縄県内でも頻繁に見られる。主な発生源には生ゴミや人畜の糞、動物の死骸等が挙げられる。

事例のあった病院の周辺には木々や畑が多く、その周辺から成虫が飛来し、幼虫が発生したものと考えられる。

また、当該種は直接卵を産まず、1齢虫を産下する卵胎生のハエであり、今回の事例の場合では、患者の鼻腔内で生育したと考えられる。武衛らの実験によると、温度が上がるほど成長が早くなり、32度の飼育下では、1齢虫からサナギになるのに少なくとも4日程度の日数が掛かることから³⁾、今回(19日に)当所に持ち込まれた幼虫は少なくとも2日前には産下されたものと考えられる。

衛生管理の行き届いているであろう病院内において、入院中の患者にハエ症が発生した事は衛生管理上の問題はもちろんこと、患者とその家族、その他病院関係者等の心証を悪化させる恐れもあり、今後は周辺環境の整備等徹底した対策が必要である。

IV 参考文献

- 1) 比嘉ヨシ子・岸本高男・加藤七五三子 (1983) センチニクバエ幼虫による蠅症について. 沖縄県衛生環境研究所報, 17号 87pp
- 2) 加納六郎・G.Field・篠永 哲 (1967) 日本動物誌「ニクバエ科」. 日本生物地理学会, 166pp.
- 3) 武衛和雄・朴 星湖・矢麦寿雄 (1977) ニクバエ 3種の生態, とくに発育と生殖能力に及ぼす温度の影響. 衛生動物, 29 (2) 125-132pp.

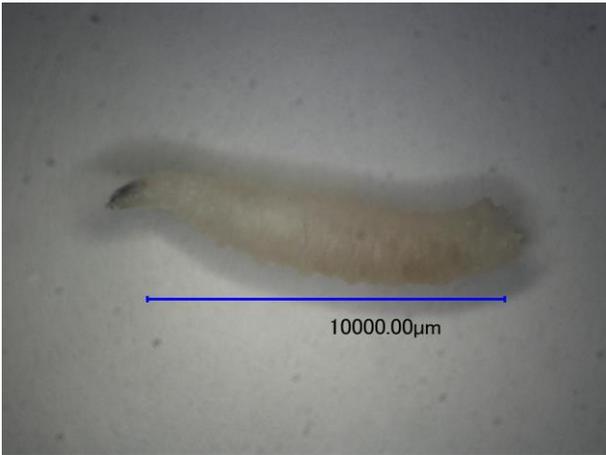


図 1. センチニクバエ幼虫



図 2. センチニクバエ成虫



図 3. センチニクバエ雄の生殖器

<謝辞>

今回の報告を行うに当たり, 情報公開にご協力して下さった関係者の方々に感謝を申し上げます.